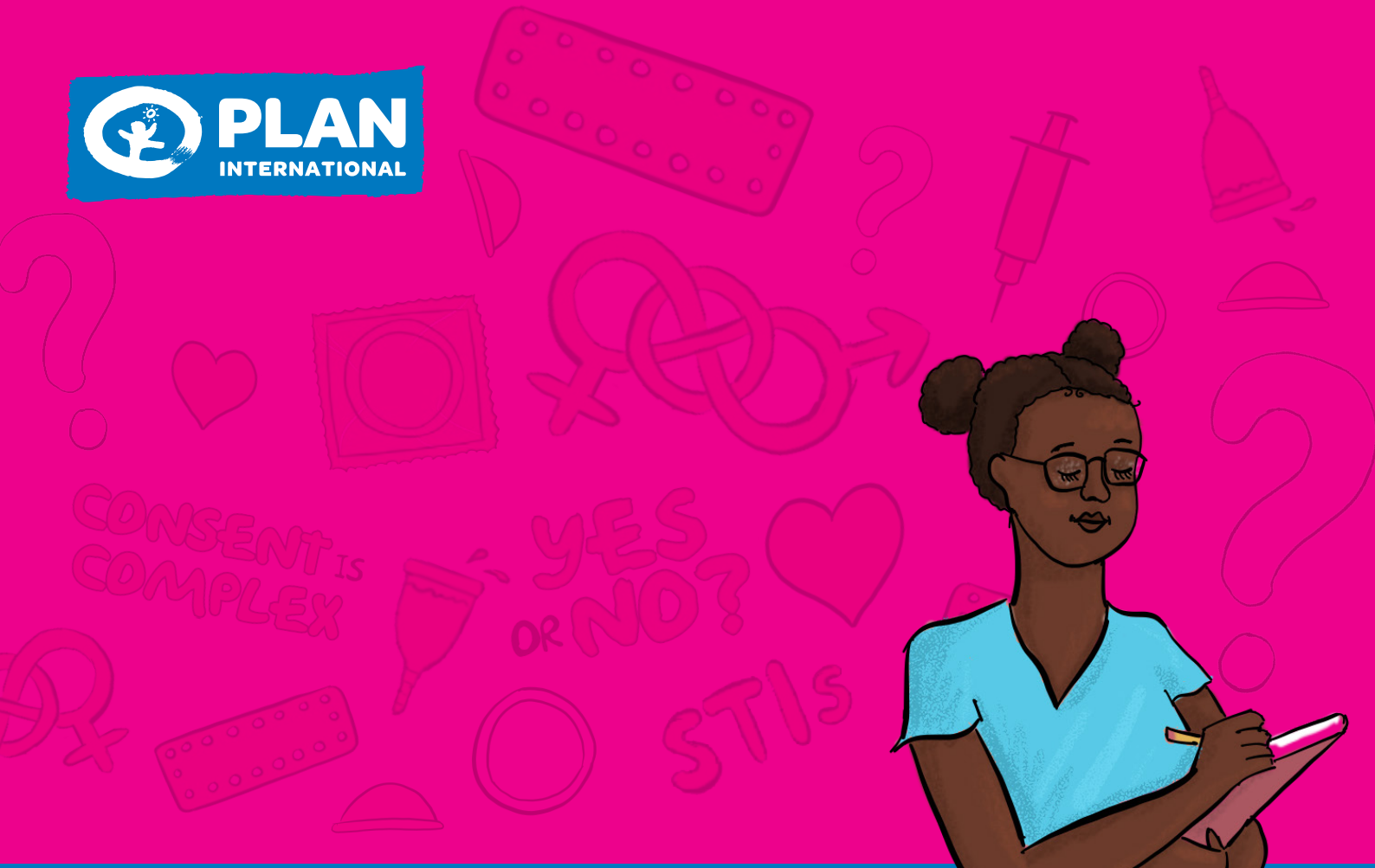
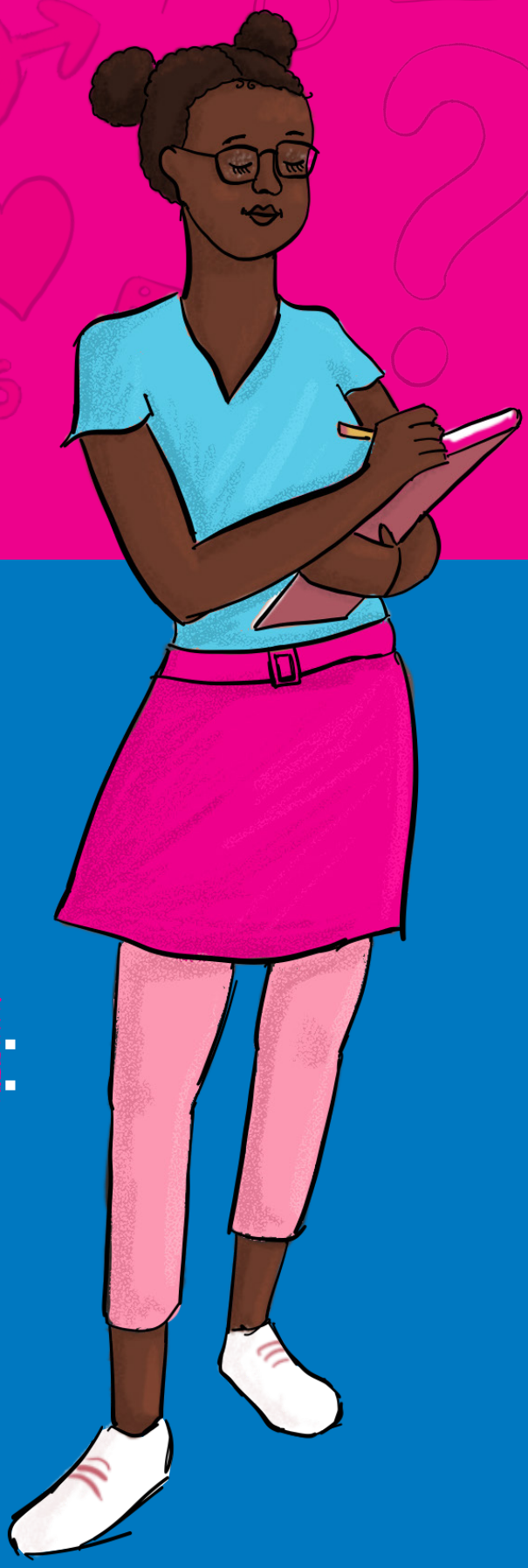
PLAN INTERNATIONAL





要約

思春期における性と生殖に関する健康と権利 (SRHR):

本当の選択、本当の生活・コホート調査からの洞察

「訳注:コホート調査とは、特定の人々の集団を一定期間にわたって追跡し、調査すること。」

注：本レポートで使用されている写真は、調査に参加した女の子たちのものではない。

本書は、報告書「本当の選択、本当の生活・コホート調査からの洞察」の要約です。報告書の全文はこちらでご覧いただけます。

背景

2007年以来、縦断的かつ質的な*「本当の選択、本当の生活」*（RCRL）調査は、9カ国で女の子とその家族の生活を追跡している[1]。2021年時点では、118人の女の子[2]とその家族が、2006年の彼女たちの誕生以来、この調査に参加している。

本調査は、女の子たちが18歳になる2024年12月までデータを収集する。信念、価値観、期待について質問し、女の子とその家族の視点を通して、女の子の生活と人生のチャンスに影響を与える社会的、経済的、文化的、制度的な要因を記録することを目的としている。また、ジェンダーの社会規範や行動がどのように作られ、維持され、あるいは時間の経過とともに変化していくのかを明らかにすることを目的としている。

この調査のデータは14年間蓄積されており、女の子のライフサイクルや、女の子の人生を形成する選択、決断、現実について独自の洞察を提供している。調査の対象となった女の子たちは現在、思春期後期を迎えている。世界中の女の子たちにとって、思春期は特に傷つきやすく、性別による期待がより顕著になる時期である。

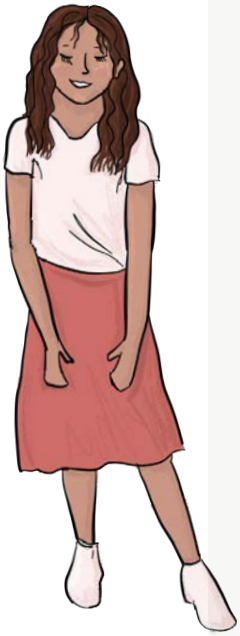
自転車通学するカンボジアの女の子たち。
© Plan International

「セクシュアリティに関する情報をもっと知りたい、男の子と付き合うようになった時に役立つと思う。妊娠や性感染症にならないための方法を知りたいです。」

THEA、15歳、ベナン、2021年

1. ブラジル、エルサルバドル、ドミニカ共和国、ベナン、トーゴ、ウガンダ、カンボジア、フィリピン、ベトナム。
2. 私たちは、ジェンダーが人々のアイデンティティや表現に様々な形で影響を与える多次元的な概念であり、ジェンダー・アイデンティティは男性と女性という二項対立的なものではないことを認識している（ただし、この研究の目的では「女の子」は包括的用語として使用されている）。その意味で、この研究の参加者は全員、生物学的性徴に基づき、女性に割り当てられている。

主な調査結果



女の子の年齢と初潮は、保護者との 性と生殖に関する健康と権利（SRHR）に関する対話を始める重要な入口である

女の子たちの幼年期から思春期初期を通じて、保護者は、SRHRについて学ぶにはまだ「若すぎる」と言う。それは、まだ彼女たちに関係ないと思っているか、不適切だと思っているからだ。初潮は、保護者がSRHRについて女の子とコミュニケーションを始める重要なターニングポイントだが、同時に、保護者が女の子の性と行動を厳しく管理しなければならないと考える瞬間でもある。

保護者は、初潮を、女の子から女性への移行を直接的に意味するものと考えている。思春期は、それ自体が独特な移行期として認識されることはほとんどない。初潮を迎えるという変化に伴い、女の子には大人の女性として受け入れられる行動を遵守し、これまで楽しんでいたある種の活動をやめるという、新たな社会的期待が生まれることになる。

性的なウェルビーイングよりもリスクの軽減が優先される

厳格な文化的・ジェンダー規範により、SRHR教育は、セックスによる妊娠を回避するための手段としてのみ優先される。女の子が思春期を迎えても、セックスについて話すことはタブー視されている。そして思春期の女の子の性を規制する規範は、女の子が結婚前に性的に積極性を見せることに反対する保守的な態度と結びついている3。禁欲に高い価値が置かれ、それは一般的に女の子を守るためだと言われる。保護者は女の子に、男の子を避け、誰にも「触らせない」よう助言しがちである。このため、意図しない妊娠、さらにはレイプやその他の性的暴力から身を守る責任を女の子が負うことになる。

社会規範とジェンダー規範はSRHRとジェンダーに基づく暴力（GBV）に関する保護者との対話に影響を与える

この調査はすべて、貧しい農村や半農村のコミュニティで行われた。女の子が直面する苦難の多くは、貧困と不平等なジェンダー規範の複合的な影響を反映していることが明らかであった。不平等なジェンダーの力学は家庭でもコミュニティでも働いている。また、ジェンダー、年齢、セクシュアリティに関連する態度、規範、慣行には、文脈を超えた重要な類似性が存在する。それらは、女の子のセクシュアリティを管理し、女性に対する有害な理想を支持する有害なジェンダー規範が、同じようなコミュニティ全体に蔓延し、女の子が思春期になるにつれてより強固なものとなっていく。規範は、女の子に期待される行動を取るよう求め、違反した場合には恥やタブーといった社会的制裁を加えることによって、強制力を発揮する。この規範は、スティグマやGBVを生み、調査の対象となった女の子たちの生活に大きな影響を与えていた。

SRHRに関する保護者の信念や態度は、しばしば女の子たち自身にも反映される。彼女たちは、自分自身や仲間の行動を監視し始め、女の子はどうあるべきかという対話を繰り返し、社会的な期待に背く女の子にスティグマと恥の連鎖が続くようにする。

SRHRについて女の子に話すことに関して、保護者に求められる役割は保護者の性別によって割り当てられている。調査に参加した父親は、SRHRについて尋ねられると、一般的に女の子の母親に譲り、この話題は「女性の問題」であると述べて、伝統的な性別役割分担と結びついていることを示した。このことは、規範によって、男性か女性かによって何が「受け入れられる」話題か、規範によって決められ、SRHRに関する父親と思春期の女の子のコミュニケーションが制限されることを示すものである。

暴力やハラスメントに関する有害なジェンダー規範は、女の子や保護者によって強化された。多くの場合、人々はハラスメントや、時には暴力さえも、女の子相手であれば許されると考えているようであった。また、女の子に対する有害な態度が、しばしば性暴力および/または早すぎる妊娠に対して、加害者ではなく女の子に非があったとし、女の子を辱めることで終わらせているという証拠もあった。

3. Buller, A.M., Schulte, M.C. (2018) “Aligning human rights and social norms for adolescent sexual and reproductive health and rights”, *Reproductive Health Matters*, 26(52), 38-45, DOI: 10.1080/09688080.2018.1542914

保護者と女の子はSRHRについて話す能力がないと感じている

調査対象となった9カ国にはそれぞれ異なる政策や文化的背景、一般的な規範が存在する一方で、保護者は娘とSRHRについて話をする際に共通の課題を経験していることが明らかになった。女の子もその保護者も、SRHRを思春期に乗り越えるべき重要な要素と考えているが、多くの人がSRHRに関する情報を得ることができないでいる。性教育のカリキュラムが貧弱であるか、存在しなかったりするため、女の子たち（および保護者）はSRHRについてに何も知らず、自身のニーズに対応する能力もないままである。

世代間の経験が、保護者に大きな影響を与える

多くの女性保護者にとっての優先事項は、特に早すぎる、強制された結婚（CEFMU）、意図しない妊娠など、自分たちが思春期に経験したネガティブな体験を娘が再び娘が経験しないようにすることである。このような考え方は、男性との接触という点で、娘を守るためのアプローチに影響を与えているようだ。保護者は男性との関係をリスクとして認識し、娘の行動を監視し、行動を制限することで、ジェンダー規範を永続させているのである。

また、多くの女性保護者が過去に性暴力や虐待を経験しており、そこでは不平等なジェンダー規範の経験や子どもの頃にさらされて暴力が、その後の人生において暴力の世代間伝達を永続させるようであった。しかし、思春期の妊娠やCEFMU、GBVに関する保護者自身のネガティブな経験や娘への不安から、前向きで親密な関係を育むことやセックス、避妊について娘とオープンに話し合うことにはほとんど結びつかない。

しかし、少数の女性保護者は、SRHRについて娘と話し合うためのより前向きなアプローチについて話しており、その多くはネガティブな経験の世代間連鎖を断ち切りたいという思いと結びついている。

ベナンで水を運ぶ女の子とその妹
©Plan International

「私は世の中のことをよくわかっておらず、学校にも行かず、だからすぐに結婚してしまったのです。Essohanaには、結婚する前に、しっかりと勉強してほしい。」

Essohanaの母、トーゴ、2018年

提言

まず、RCRLの調査対象地域には様々な背景があり、すべての提言は、国内外を問わず、さまざまな状況に応じて調整され適用される必要があることに留意する必要がある。

調査結果からは、女の子たちは保護者からSRHRについてもっと情報を得たいと考えており、ほとんどの保護者は思春期の女の子たちとSRHRについて効果的な会話ができるような支援を求めていることが明らかになった。思春期の女の子のSRHRを改善するための出発点は、政策環境を整えることだが、これには、公式・非公式な教育の場やコミュニティで、性と生殖に関する健康についてオープンで率直な議論ができるようにする必要がある。

各国政府は、以下を行うべきである:

- GBVを防止し対応するものを含め、ジェンダーや思春期に対応した質の高いSRHRサービスを手頃な価格で利用できるようにする。これらのサービスには、性暴力の被害者、結婚や子育てをしている女の子を含む思春期の女の子たちとの協議のもとに開発され、実施されなければならない。サービスには、農村地域にいる思春期の若者の避妊へのアクセス改善が含まれるべきである。
- 思春期の母親を支援する環境を作るための政策を立案・実施し、監視する。これには、暗黙のうちに、あるいは明示的に女の子を学校から排除する政策を取りやめることと、妊娠中や子育て中の女の子が自分のニーズに合わせて柔軟に安全な空間で学ぶことができるよう、思春期に対応した適切な支援を提供することの両方が含まれなければならない。
- CEFMUを含むGBVと有害な慣行に対する予防と対応を強化し、思春期の若者の主体性と、さまざまな形態の暴力を促す有害な規範と慣行を変革する必要性の両方を認識する、権利に基づいたジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを埋め込むこと。
- 多様な性的指向、性自認、性表現、性特性（SOGIESC）を含むジェンダーへの理解を深めるセックス・ポジティブなアプローチを用いて、学習者の年齢と段階に応じた包括的なセクシュアリティ教育（CSE）を強化し、このCSEを学校教育の初期段階に含める4。この取り組みのために、政府や教育省が、それぞれの環境でCSEを実施する際に生じる課題を克服できるよう、適応力があり、特定の状況や地域社会の規範を認識した段階的なアプローチを含むべきである。
- CSEへの「学校全体アプローチ」を奨励する。CSEプログラムには、CSEの目標と内容を保護者に伝え、彼らの支持を得るための活動を含めるべきである。

NGOとCSOは、以下を行うべきである:

- 多様なSOGIESCに関する適応を含め、GBVやセクシュアリティに関する保護者と子どものコミュニケーションを改善するための知識を深める等のサポートをし、保護者が子どものSRHRに積極的に関与できるように支援する。若者はサポートや情報をまず保護者に求め、その際に、どちらからも恥ずかしさや戸惑いがなく、助けを求めることができると感じられるようにする必要がある。そのためには、SRHRにまつわる経験について世代ごとに、また世代間で話し合う機会を設けることが必要である。

4. Plan International（2021）Translating CSE commitments into action. こちらで閲覧可能：https://plan-international.org/publications/translating-cse-commitments-into-action/, 2022年5月23日アクセス。

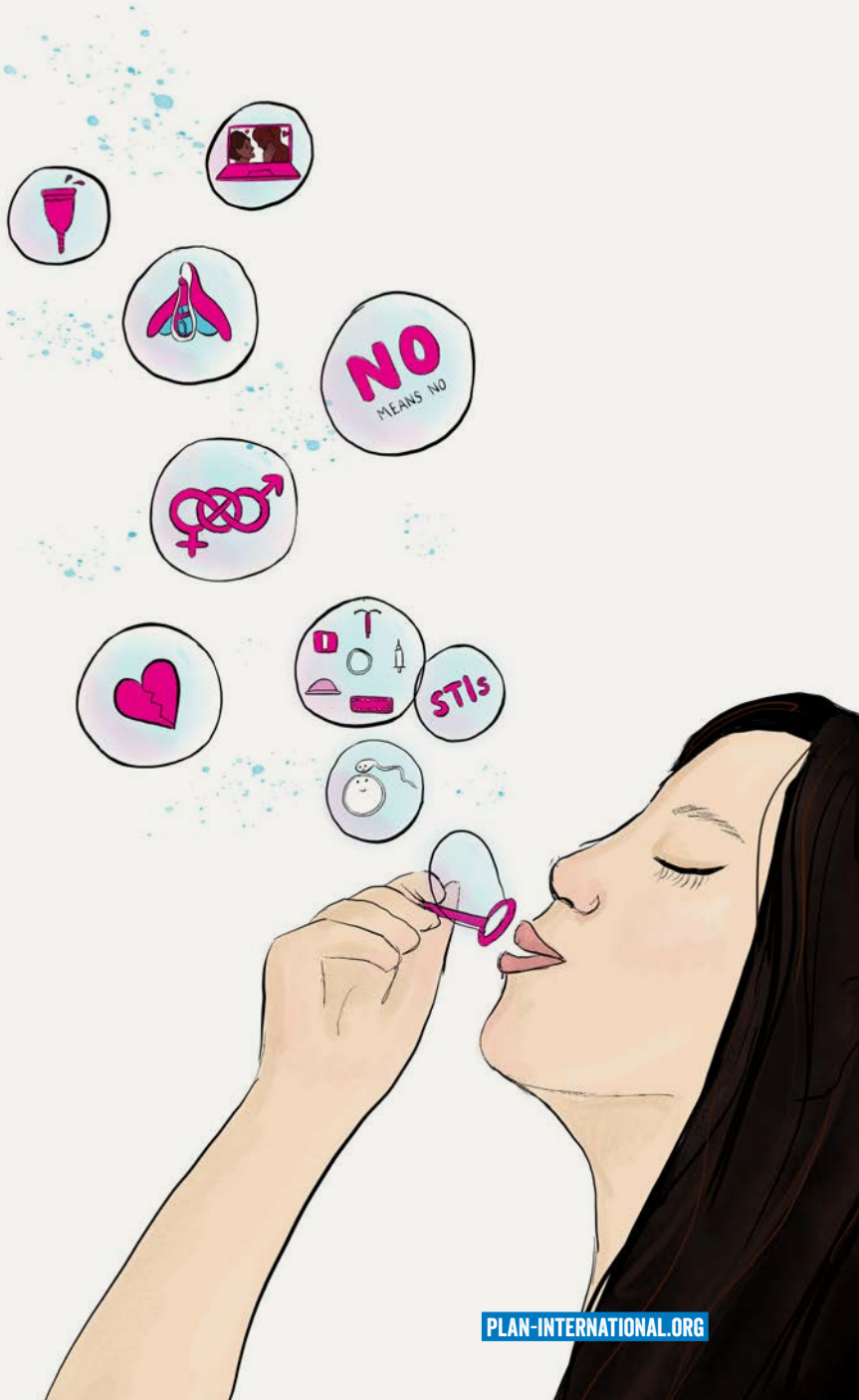
SRHRにまつわるスティグマを軽減する規範や価値観は、健康改善に寄与するものでなければならない。社会規範やジェンダー規範は調査対象地域全体に根づいており、人間関係や性行為について期待される行動に関連して、SRHRに関する保護者のアプローチに影響を与え続けている。GBVをめぐる規範は、GBVを予防し対応するための政策が存在しても、それらが常に適切に施行され、ジェンダーや年齢に対応した方法でモニタリングされているわけではない。すべての関係者が、社会規範やジェンダー規範に挑戦する責任を共有しなければならない。

資金提供者 に求められること:

- GBVやCEFMUなど思春期の女の子に影響を与えている重要なSRHR問題に関連して、思春期のセクシュアリティ、主体性、身体の自律性を中心とするジェンダー規範を転換する取り組みに、部門横断的な長期的投資が行われるようにする。

NGOとCSO に求められること:

- ネガティブな社会規範やジェンダー規範に焦点を当てた世代間対話を可能にし、同時に新しい肯定的な規範を構築する。月経や親密な関係、ジェンダーアイデンティティやセクシュアリティに関する神話やタブーに挑戦し、セックス、避妊、性的ウェルビーイングに関する議論が自由にできるようにし、避妊具を使うことを躊躇わせ、禁欲だけを奨励してきた規範に挑戦する。CEFMU、GBV、思春期のセクシュアリティ、早すぎる妊娠の関連性、そして有害な社会規範がいかにこれらを永続させているかについての理解を深める必要がある。
- 学校やコミュニティで、妊娠・育児中の女の子や性暴力のサバイバーに対する偏見や差別を減らし、彼女たちがSRHサービスにアクセスできるようにすることを目的とした介入策を実施すること。
- SRHRの成果を向上させ、前向きな関係を育むことを目的としたジェンダー平等な態度を促進することによって、父親や父親の男性仲間を女の子のSRHRに関与させる。女の子の性と生殖に関する健康管理の責任を女性だけに押しつけてきた伝統的な男らしさ、女らしさに関する規範を批判的に評価するために、男性と男の子を関与させるべきである
- メディアの活用を含む様々な介入を通じて規範の変化を促進し、また若者がアクセスできるSRHRに関する様々な情報源を提供する。



謝辞

ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナムの女の子とその家族からの、長年にわたる洞察と時間がなければ、この調査は不可能でした。心から感謝します。

ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナムのプラン・インターナショナルの国統括事務所が、すべてのデータ収集の取りまとめを行ってきました。長年にわたり、多くの方々がデータ収集に携わってこられましたが、最近では、本調査のフォーカルポイントに特に感謝しています。ベナンのRoland Djagaly、ブラジルのFabiane SerenoとRaila Alves、カンボジアのChankrisna Sawada、ドミニカ共和国のOlga Figuereo、エルサルバドルのYesenia Segovia、フィリピンのManny Madamba、トーゴのAbdoul Baki Labodja、ウガンダのChristopher Kugonza と David Aziku、ベトナムのTrung Truong Vuに、感謝の意を表します。また、ベナンの Abibou Mamadou、エルサルバドルの Celina Rosales と Anabel Berenice Amaya、トーゴの Joseph Badabadi、ベトナムの Dai Luu Quang に感謝します。

本レポートは、Jenny RivettとIsobel Fergusにが執筆しました。

本報告書と提言に対して、以下の方々からフィードバックをいただき、大変感謝しています。Terry Roopnaraine, Bekky Ashmore, Lilli Loveday, Jacqueline Gallinetti, Joanna Shepherd, Jessie Freeman, Anjelia San Buenaventura, Raila Alves, Manny Madamba, Yesenia Segovia, Roland Djagaly, David Aziku, Chankrisna Sawada, Mono Mariano, Christopher Kugonza and Claudia Ulferts

2021年以降、この調査はカナダ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、アイルランド、スウェーデン、スイス、英国のプラン国内事務所から資金提供を受け、プラン・インターナショナル・グローバルによって管理されています。2021年以前は、プラン・インターナショナルUKが管理と資金提供を行っていました。

編集者 Anna Brown

デザイン Out of the Blue

イラスト © Hazel Mead 2020 - All rights reserved

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、世界中の子どもたちの権利と女の子の平等の推進を目指しています。私たちプランはすべての子どもに能力と可能性があると考えています。しかしながら、貧困や暴力、疎外、差別によりその力を発揮できないことも少なくありません。そして、その影響をもっとも受けるのが女の子たちです。独立した開発・人道支援組織として、私たちは子ども、ユース、支援者、関連団体とともに、女の子と弱い立場にあるすべての子どもたちが直面している現実の根底にある問題の解決に取り組んでいます。子どもたちが生まれてから成人するまで、その権利を守り、子どもたちが危機と困難に備え、対応できる力を身につけられるよう支援しています。その知見と影響力を活かして、私たちは地域・国家・地球レベルで人々の行いと政策に変革を促します。設立から80年以上、私たちは子どもたちとの強い絆の下、世界75ヵ国以上で活動を続けています。

Plan International
International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

Published in 2022. Text © Plan International

facebook.com/planinternational
twitter.com/planglobal
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv